

春寒	春寒く舟の休める水の上	2019. 2. 11	目借時	割つて剥く鶉の卵目借時	2019. 2. 25
	春寒や蒼の枝を前にして	2019. 2. 8		太陽も目玉も丸く目借時	2019. 2. 25
	春寒の中に蒼を解くもの	2019. 2. 9		太陽も月も丸くて目借時	
	春寒や掃かれて硬き石畳	2019. 2. 11		夕空が赤く滲みぬ目借時	
	春寒や掃かれて白き石畳	2019. 2. 12		夕空は赤く滲みて目借時	
	春寒や洋酒の当てのチョコレート	2019. 2. 11		夕暮の赤き空あり目借時	
	春寒の机に活けしものを嗅ぐ	2019. 2. 11		透きとほる赤き空あり目借時	
				ゆふぐれの赤き空あり目借時	
				ゆふぐれの赤く透きたる目借時	
				透きとほる赤きゆふぐれ目借時	
				ゆふぐれの向ふも赤く目借時	
				評判の我かも知れず目借時	2019. 2. 25
				貸してやる我が評判の目借時	
				花眼なる我の目玉や目借時	
				花眼なる我の目玉を目借時	
				貸してやる目玉失くすな目借時	
				貸してやる目玉失くすな蛙殿	
				貸し申す目玉失くすな蛙殿	
				借りてゆく目玉失くすな蛙殿	
				心せよ借りたる目玉蛙殿	
				貸してやる目の玉ふたつ春の宵	
				貸してやる花眼なれども目借時	
				貸してやる花眼の哀れ目借時	
				目借時哀れに花眼借りらるる	
				目借時哀れに花眼失ひぬ	
				目借時哀れに花眼うしなひぬ	
				目借時あはれに花眼うしなひぬ	
				評判の我の目玉や目借時	
				評判の我の目玉か目借時	
				評判の我が目の玉か目借時	
				貸してやる目の玉ふたつ麗らけし	2019. 7. 9
				春昼や目の玉ふたつ貸してやる	
				貸してやる目の玉ふたつ春の昼	
				春昼や目の玉ふたつ貸してやる	
				貸してやる目の玉ふたつ春眠し	

八十八 夜	野も山も八十八夜過ぎにけり 野に山に八十八夜過ぎにけり 灯台の照らす八十八夜かな 八十の端忘るな別れ霜	2019. 3.25	八十八 夜	はるかなる八十八夜風の音 はるかより八十八夜風の音 はるかより八十八夜茶の香り はらはらと八十八夜茶の香り 晴れ渡る八十八夜茶の香り 働いて八十八夜茶の香り	2019. 3.25 2019. 3.26
	一寸の物芽八十八夜月 ものの芽の一寸八十八夜月 ものの芽に今宵八十八夜月	2019. 3.25	春の雪	春雪や洋酒の当てのチョコレート	2019. 2.12
	八寸の物芽八十八夜月 芽吹きたるものに八十八夜月		薄氷	うすら氷と水の葛藤滲みつつ うすら氷の割れても水に沈まざる	2019. 1.22 2019. 1.24
	八十八夜米寿の夜とも言ひつべし 米寿まだ遠く八十八夜かな 八十八夜米寿の人に茶をすすむ	2019. 3.25		うすら氷を二枚重ねにしてやりぬ うすら氷や眩しくなれば目をつむり	2019. 1.25
	茶の山も八十八夜に眠るころ 茶の山の眠る八十八夜かな 茶の山も眠る八十八夜かな 草も木も眠る八十八夜寒 草も木も眠る八十八夜かな 草も木も八十八夜静まりて 草も木も八十八夜静まりぬ 草も木も八十八夜寝静まり 草も木も八十八夜寝静まる 木も草も八十八夜寝静まり 木も草も八十八夜深眠り	2019. 3.25 2019. 3.26 2019. 3.27	茶摘	うねうねと茶摘畑や富士の山	2019. 1.25 2019. 1.25 2019. 1.25
	ごろごろと八十八夜茶の畑 うねうねと八十八夜茶の畑 うねうねと茶畑八十八夜かな うねうねと茶山八十八夜かな うねうねと茶山八十八夜の香 うねうねと八十八夜茶山かな うねうねと八十八夜茶の香り うねうねと茶山の薫る夜なりけり うねうねと茶畑薫る夜なりけり うねうねと茶畑薫る富士の山 茶畑のうねうねとある富士の山 うねうねと茶畑のある富士の山	2019. 3.25 2019. 3.26 2019. 3.27			
	東京の八十八夜常の如 東京の八十八夜明るけれ 東京の八十八夜灯に溢れ 東京の八十八夜灯にあふれ	2019. 3.25 2019. 3.26			

花篝	花びらの飛んで火に入る花篝	2019. 3. 7	花篝	美しや火の粉豊かに花篝	2019. 3. 8
	せつせつと花散る中に花篝	2019. 3. 7		美しや篝火はいま花篝	
	せつせつと花散り止まず花篝	2019. 3. 8		美しや落花に燃ゆる花篝	
	せつせつと花散りぬるを花篝			美しや花浴びてゐる花篝	
	せつせつと散りぬる花や花篝			篝火は今美しき花篝	
	せつせつと花の剥落花篝			花びらの舞つていよいよ花篝	2019. 3.10
	せつせつと赤の剥落花篝			花びらの舞ひ初めてより花篝	
	花篝火花吹雪と言ひつべし	2019. 3. 9		花散つて花舞つてより花篝	
	ふく風に火花吹雪や花篝			花びらの いよいよ花篝	
	ある時は火花吹雪や花篝			花びらの乱舞いよいよ花篝	
	音がして火花吹雪や花篝			花びらの舞ひ散りいよいよ花篝	
	音がして火花のふぶく花篝			花びらの幻惑いよいよ花篝	
	音がして火花は空へ花篝			花びらの剥落いよいよ花篝	
	音がして火花を散らす花篝			花びらの剥がれていよいよ花篝	
	音がして火花散らせり花篝			火の中へ花びらいよいよ花篝	
	花篝火花吹雪となりにけり	2019. 3.28		花びらの焦がれていよいよ花篝	
	花吹雪火花吹雪や花篝	2019. 3.29		花浴びの花びら燃えて花篝	
	ぱちぱちと火花は空へ花篝	2019.12. 6		花びらの火中となりて花篝	
				花びらの火中に消えて花篝	
				花びらを火中となせり花篝	
				火の中へ花びら消えて花篝	
				花びらに火が点くいよいよ花篝	
				花びらに火花となりて花篝	
				花びらが火の花となる花篝	
				花びらが火に舞ひいよいよ花篝	
				煽らるる花びらいよいよ花篝	
				煽らるる花片いよいよ花篝	
				燃え上る花片いよいよ花篝	
				降りかかる花びらいよいよ花篝	
				ふりかかる花びらいよいよ花篝	
				ふりかかる花びらいよいよ花かがり	
				もえあがる花びらいよいよ花かがり	
				花篝こそ花びらを浴びるべし	2019. 3.11
				花篝散る花びらの中にな	
				花びらをいくつ燃やせし花篝	
				花びらのいくつ燃えたる花篝	
				花びらのいくつ火となる花篝	
				花びらの輝きいよいよ花篝	
				花びらのひとひら燃えて花篝	
				花びらのひらひら燃ゆる花篝	2019. 3.12

花篝	ひらひらと花びら燃ゆる花篝	2019. 3. 14	落花	せつせつと散りぬる花を見てやりぬ	2019. 3. 8	
	ひらひらと花びらもゆる花篝	2019. 3. 17		見てやりぬせつせつと花ちりぬるを	2019. 3. 30	
椿	水底に赤き椿を敷き詰めて	2019. 1. 25		せつせつと散りぬる花でありにけり	2019.12. 6	
	一弁の反りたる瑕瑾玉椿	2019. 1. 26		せつせつと散りぬる花の尽きぬまま		
	あと一つ咲けば百なる白椿			せつせつと散りぬる花の尽きるまで		
	玉椿いくつ詰りし樋の中			せつせつとちりぬるはなをみてやりぬ		
	ぼたぼたと雪解雫や赤椿	2019. 1. 25		せつせつと散りぬる花をみてやりぬ		
	きのふ掃きけふは掃かざる落椿	2019. 1. 25		花散るや嗚呼荒城の夜半の月		2019. 3. 30
	きのふ掃きけふは掃かざる椿かな			花散るや縦横に組む篝の字		2019. 3. 7
	赤椿白椿蕊黄色	2019. 1. 25		花散るや火の粉豊かに花篝		2019. 3. 8
	赤椿白椿蕊金色に			花あはれ夜風に吹かれ飛んで火に		2019. 3. 8
	赤椿白椿金色の蕊			吹く風に花の哀れや飛んで火に		
紅白の椿の蕊の黄色	2019.12. 5	花吹雪	花吹雪嗚呼荒城の夜半の月	2019. 3. 8		
赤い椿と白い椿の蕊黄金			篝火の火の衰へに花吹雪	2019. 3. 8		
蒲公英	太陽に幸あれと咲く鼓草	2019. 2. 25		篝火に火花が爆ぜて花吹雪	2019. 3. 9	
	蒲公英や太陽に幸多かれと			篝火の火花吹雪と花吹雪		
	太陽に幸多かれと鼓草			花かがり火花ふぶきと言ひつべし		
土筆	青頭つまめば硬き土筆かな	2019. 1. 8		ふく風に火花の吹雪く花篝	2019. 3. 29	
	すみれ野に川が流れて土筆摘み	2019. 1. 9		篝火の火花吹雪や花吹雪		
	これ以上伸びなば土筆倒れなむ			篝火の火花吹雪と花吹雪		
	肌色の土筆そんなに伸びずとも	2019. 1. 10		篝火の火花吹雪に花吹雪		
	頭抜けたる八頭身の土筆かな	2019. 1. 8		篝火の火花吹雪よ花吹雪		
	頭抜けたる土筆は摘まずそのままに	2019. 1. 10		篝火の火花吹雪も花吹雪		
	土筆まだ三頭身の青頭			篝火の火花吹雪ぞ花吹雪		
	芽といふは即ち頭つくしんぼ	2019. 1. 10		花吹雪夜は篝火も吹雪きをる		2019. 4. 1
	摘み飽きて石に並べし土筆かな	2019. 1. 10		篝火の火の粉を襲ふ花吹雪		2019. 3. 8
	丈伸びて頭の呆けつくしんぼ	2019. 1. 10		篝火の火の粉の上に花吹雪		
	伸び伸びて頭の呆けつくしんぼ			篝火の火の粉に掛かる花吹雪		
	芽吹くとも頭出しとも土筆	2019. 1. 10		美しや篝火に舞ふ花吹雪		
	花になき緑の粉やつくしんぼ	2019. 1. 10		地獄絵の篝火に舞ふ花吹雪		2019. 3. 31
	花になき緑の粉をつくしんぼ	2019. 4. 9		人気なき篝火に舞ふ花吹雪		2019. 4. 2
花になき緑の粉ぞつくしんぼ		篝火を襲ふことあり花吹雪				

涼し	日本は湯けむりの国涼しけれ	2019.12. 6	鱧の皮	品書のこんな処に鱧の皮	2019. 6.10
夕立	渋谷駅前夕立を実況す	2019. 6.25		京浪速飛んで徳島鱧の皮	2019. 6.10
	夕立に小便するは楽しかる	2019. 6. 2		トンネルを抜けて京都へ鱧の皮	2019. 6.10
	夕立の濡れ小便は楽しかる		豆飯	卵焼黄色豆飯緑色	2019. 4.21
	夕立に濡れ小便は楽しかる			豆飯の後の七時のニュースかな	2019. 4.21
	夕立に連れ小便の五六人	2019. 6.25		豆飯や一家揃つてテレビみる	
	夕立の中に小便楽しかる			豆飯や一家揃つて見るテレビ	2019. 4.25
	自祝して雷様の大夕立	2019. 6.25		サラリーマンは気楽な稼業の豆ご飯	2019. 4.21
	夕立を招く暗さとなりにけり	2019. 6.25		豆飯の豆引き立てて飯寡黙	2019. 4.21
	家々は窓を閉ざして大夕立	2019. 6.25		豆飯の豆の芯まで緑色	2019. 4.21
	タクシーの屋根に轟く夕立かな	2019. 6.25		美しや若葉の色の豆御飯	2019. 4.23
団扇	絵団扇をながめつつ待つ茹で上り	2019. 5.12		美しき若葉美味しい豆御飯	
	絵団扇をながめては待つ茹で上り			美しや若葉の色に豆御飯	2019. 4.25
	絵団扇の美人と待てる茹で上り			見てみだし実篤筆の豆の飯	2019. 4.23
	絵団扇の美女と待ちたる茹で上り			見てみだし実篤筆の豆御飯	2019. 4.25
	絵団扇の美女と待つなる茹で上り			豆飯の豆の二つに割れたるも	2019. 4.23
	茹で上るまでを団扇の絵に遊ぶ	2019. 5.13			
	ゆであがるまでを団扇の絵に遊ぶ				
	茹で上り待つてゐる間の団扇の絵				
	蕎麦が来るまでを団扇の絵に遊ぶ	2019. 5.18			
	出来上るまでを団扇の絵に遊ぶ				
	注文が来るまで団扇の絵に遊ぶ				
	蕎麦が来るまでは団扇の絵に遊ぶ				
	出来上るまでを団扇の絵に遊ぶ				
	出来上るまでを団扇の景の中				
	川風に団扇を使ふこともなく	2019. 5.12			
	川風や団扇を使ふこともなく				
	風鈴に団扇の風をやりにけり	2019. 5.12			
	風鈴を励ましている団扇かな				
	風鈴にしびれを切らす団扇かな				
	絵団扇の綺麗を持ちて橋涼み	2019. 5.12			
	絵団扇の美人と共に橋涼み				
	絵団扇の美人としばし橋涼み				
	団扇絵の美人片手に橋涼み	2019. 5.18			
	団扇絵の美人片手に夕涼み	2019. 7. 8			
	螢にも見せてやりたる団扇かな	2019. 5.12			
	幽霊の団扇片手の胡坐かな	2019. 5.18			
	古団扇燃して団扇の灰の膏	2019. 5.25			
	扇がねどよく燃えにけり古団扇				

冷房	輪廻する液体気体冷房す	2019. 5. 18	茅の輪	<u>黒髪や茅の輪を潜るとき戦ぐ</u>	2019. 5. 9
	<u>輪廻する液体気体部屋冷やす</u>			<u>体操の老人集ふ茅の輪かな</u>	2019. 5. 9
	輪廻する気体液体部屋冷やす			大茅の輪紙垂もひらひらしてゐたる	2019. 5. 9
	液体と気体の輪廻部屋冷やす	2019. 5. 19		<u>大いなる茅の輪に紙垂のひらひらと</u>	
	液体と気体の輪廻部屋冷やす			大いなる茅の輪の力くぐりけり	2019. 5. 10
	冷房の音に札束数へをる	2019. 5. 18		ありありと神の力の茅の輪かな	
	<u>冷房の中に札束数へをる</u>	2019. 5. 25		大いなる神の茅の輪をくぐりけり	
	<u>冷房のなき街中を見てゐたる</u>	2019. 5. 18		<u>大いなる神の力の茅の輪かな</u>	
	冷房車遮光硝子で薄暗き	2019. 5. 18		こつこつと茅の輪を渡る板の音	2019. 5. 9
	冷房の遮光硝子で薄暗き			こつこつと茅の輪に掛けし渡り板	
	冷房や遮光硝子で薄暗き			こつこつと茅の輪を越ゆる渡り板	
	<u>冷房や遮光硝子で外暗し</u>			こつこつと茅の輪を越ゆる板の音	
	冷房と防犯カメラ作動中	2019. 5. 18		こつこつと茅の輪を越ゆる板を踏む	2019. 5. 10
	冷房と防犯カメラ全館に			こつこつと茅の輪に掛けし板を踏む	
	<u>冷房と監視カメラが全館に</u>			こつこつと茅の輪を潜る板を踏む	
	<u>冷房に住み着いている美男美女</u>	2019. 5. 18		こつこつと茅の輪くぐりの板を踏む	
	<u>冷房の厨にどかと冷蔵庫</u>	2019. 5. 18		こつこつと茅の輪くぐりの板をふむ	
	冷房にどかと置かれし冷蔵庫	2019. 5. 20		こつこつと茅の輪くぐりの渡り板	
	句を作る厨の広し冷房裡	2019. 5. 18		こつこつと茅の輪くぐりの板の音	
<u>句を作る広き厨や冷房裡</u>			こつと鳴る茅の輪くぐりの渡り板		
冷房の広き厨に句を作る	2019. 5. 19		<u>歩み板こつこつ渡る茅の輪かな</u>		
<u>闇雲に冷房強き社長室</u>	2019. 5. 20		<u>足元の茅の輪の板をこつこつと</u>		
<u>冷房の体育館にサーブ打つ</u>	2019. 5. 21		<u>神主のこつこつ渡る茅の輪かな</u>	2019.12. 6	
本堂に冷房のなく薄暗く	2019. 5. 25		二度三度茅の輪くぐりの	2019. 5. 10	
冷房のなき本堂の薄暗き			ひだりみぎ茅の輪くぐりの 無限大		
形代	<u>置かれあるまだ形代となれぬ紙</u>	2019. 5. 9		8の字に茅の輪くぐりて神殿へ	
	<u>形代を覚悟の紙の真白なる</u>	2019. 5. 9		<u>8の字に茅の輪を巡り神殿へ</u>	
	形代を覚悟の紙と鉄かな			8の字に巡る茅の輪の 無限大	
	<u>形代を切り抜いてゐるチョコキとパー</u>	2019.12. 6		<u>茅の輪にも夜の帳の降さるる</u>	2019. 5. 10
	<u>形代を覚悟の紙でありにけり</u>			大茅の輪夜の帳を降ろさしむ	
				大茅の輪夜の帳を命じけり	
				大茅の輪夜の帳を待てりけり	
			輪くぐりに夜の帳のするすると		
			懐しや輪くぐりさんと言ふ言葉	2019. 5. 10	
			<u>懐しき輪くぐりさんの沼津かな</u>		
			産土は輪くぐりさんの沼津なり		
			<u>人の世を輪切りにしたる茅の輪かな</u>	2019. 5. 10	
			<u>身を投げるやうに茅の輪をくぐりけり</u>	2019. 5. 10	
			次の世へ身を投げるごと茅の輪かな		

茅の輪	くぐりたる茅の輪の未だ閉ぢてゐず <u>くぐりたる茅の輪に閉づる気配なし</u>	2019. 5.10	筍	客人の起きて来ぬ間の筍堀 筍を掘るや客人起きぬ間に	2019. 4. 8
鱧	京の鱧なにはの鱧や旅の宿 京の鱧なにはの鱧や旅楽し 鱧料理京に浪速に旅楽し 旅楽し京に浪速に鱧料理 <u>旅楽し京に浪速に鱧尽し</u> <u>京の雨浪速の雨や鱧の皮</u>	2019. 6.10		筍を朝寝の客に掘つて来ぬ 筍を朝寝の客に掘り当てし 筍を朝寝の客に掘り当てぬ 客人の起きて来ぬ間に筍を <u>筍や客人はまだ寝てをられ</u>	2019. 4. 9
	本場には敵はぬ鱧も今や旬 <u>本場には敵はぬ鱧か食うてみよ</u>	2019. 6.10		<u>筍の切り捨てられし半身かな</u> 筍の切られ半身が土の中 筍の腰骨に刃を入れにけり 一刀を入れる筍の腰骨に	2019. 4. 8
玉葱	しくしくと新玉葱を切り進む	2019. 4.24		すつぱりと筍の腰骨を切る 筍の腰骨あたりすつぱりと	
	色白の新玉葱の瑞々し 色白の新玉葱の平べつた	2019. 4.24		筍の切口すぐに土に消ゆ	2019. 6.27
	丸くなる新玉葱の日数かな 丸くなるまでは新玉葱の日々 丸くなるまでを新玉葱の日々	2019. 4.24		<u>筍の切口土に残さるる</u> <u>筍の腰の辺りをすつぱりと</u>	
	まだ玉とならぬ新玉葱吊す 玉となるまでを新玉葱吊す 玉となる日数新玉葱吊す	2019. 4.24		<u>筍に種蒔くこともなかりけり</u>	2019. 4. 8
	<u>なんとなく新玉葱の大雑把</u>	2019. 4.24	マーガ レット	<u>これやこのマーガレットのオペラ咲き</u> 菊に似てマーガレットと洋風に	2019. 3.25
	玉葱の硬き魂真二つに 玉葱は魂の色切り刻む 玉葱の先づは上下を切り落し 魂の如き玉葱切り刻む 玉葱の魂硬し切り刻む <u>魂はいま玉葱の塊に</u> 玉葱の沈黙内部告発者	2019. 4.25		<u>菊に似てマーガレットと片仮名で</u>	2019. 3.25
	<u>玉葱を水に戻して水捨てて</u> 玉葱を水に戻して仕舞ひけり	2019. 4.25			
	玉葱の皮むくほどの敵意なり 玉葱の皮むくほどの敵意あり 玉葱の皮剥きほどの敵意なり <u>玉葱の皮剥きほどの敵意かな</u> 玉葱の皮剥きほどの敵意あり	2019. 4.25			

爽やか	爽やかに月と地球は隔たりて	2019. 8.10	相撲	輪を描いて土俵なりけり草相撲	2019. 6.24		
	爽やかに月は地球を巡りをる			牛の如く重たき腹の相撲かな	2019. 6.25		
	爽やかに天は地球を巡りをる			牛の如き腹の波打つ相撲かな			
	爽やかに天動説の眺めかな			牛の如き腹を押し合ふ相撲かな			
	爽やかに地球を巡る月や星			見覚えの去年の尻や宮相撲	2019. 6.25		
	爽やかや月星めぐる地の廻り			見覚えの大きな尻や宮相撲			
	爽やかや月も星座も地を巡る			見覚えの大きな尻よ宮相撲			
	爽やかに星座の巡る地球かな			見覚えの尻の大きな宮相撲			
	爽やかに月の満ち欠け巡り来る			見覚えの大きな尻の宮相撲			
	爽やかに月の満ち欠け初めから			これやこの去年の尻や宮相撲			
	爽やかに地球を巡る星座かな			草相撲四股名が泣いてみたりけり	2019. 6.25		
	爽やかに天動説を肯ひぬ			流燈	家々が流燈を見てみたりけり	2019. 7.10	
	爽やかに天動説の星座かな				家々が行く流燈を見てみたり		
爽やかに地球を巡る月ひとつ	家々が燈籠流しを見てみたり						
爽やかに地球を廻る月ひとつ	2019. 8.11	2019.10. 3	家々が燈籠流し見てみたり				
二百十日	ぱらぱらと塩振る如し厄日雨	2019. 7.25	流燈	家の如く灯の点りたる燈籠かな	2019.12. 6		
	塩振る如二百十日の雨少し			灯りたる家にも似たる燈籠かな			
	塩ふるごと二百十日の雨少し			灯点して家にも似たる燈籠かな			
	塩を振る程に厄日の雨が降る			盆踊り果てたる川の燈籠かな	2019. 7.10		
	塩を振る如く厄日の雨が降る			精霊舟送る若衆水に立つ	2019. 7.10		
	塩を振るやうに厄日の雨が降る			流燈の燭一本の旅路かな	2019. 7.10		
	塩を振るくらゐ厄日の雨が降る			見送りの生者は岸に流燈会	2019. 7.10		
	振り塩の如く厄日の雨少し			流燈会寂しき花火上りけり	2019. 7.10		
	黒雲に雨音もなき厄日かな			2019. 7.25	竈馬	竈馬かまど捜して飛び立てり	2019. 8.22
	黒雲に雨音のなき厄日かな					かまどうま竈さがして飛び立てり	
雲行き of 怪しき二百十日かな	かまどうま竈なき世に飛び立てり						
黒雲の怪しき二百十日かな	かまどうま竈なき世に髭長し						
黒雲の狂へる二百十日かな	竈なき世に竈馬髭長し						
黒雲の苦しきまでに厄日かな	竈なき世に生れたる竈馬						
黒雲の苦しかりける厄日かな	竈なき世に髭長き竈馬						
二百十日二百二十日や聳え立つ	カタカナで書かれて悲しカマドウマ	2019. 8.22					
秋深し	2019.10. 3	部屋の隅に穴ある如し竈馬	2019. 8.22				
捨団扇	2019. 5.18	憂きことを湯殿に語る竈馬かな	2019. 8.22				
踊り	盆踊り果てたる川の舟出かな	2019. 7.10	憂きことを湯殿に語る竈馬				
			脚の直髭の曲なる竈馬	2019. 8.22			
			湯を浴びて湯殿に死せり竈馬	2019. 8.24			

蚯蚓鳴く	一管の肉の色して蚯蚓鳴く	2019. 7.24	柿	<u>寺々の柿の日暮となりにけり</u>	2019. 8.22
	一管の肉の色なる蚯蚓鳴く			寺々に柿の日暮の来りけり	
	一管の肉色蚯蚓鳴きにけり	2019. 7.25		<u>柿の秋すなはち柿の日暮かな</u>	
	<u>一管の肉の弾力蚯蚓鳴く</u>			柿の秋日本に山河ある限り	2019. 8.22
	<u>子が伸ばす一管の肉蚯蚓鳴く</u>	2019.11.25		柿食うて日本の村の滅びつつ	
	子に聞かす子守唄かも蚯蚓鳴く	2019. 7.24		<u>柿たわわ日本の村の滅びつつ</u>	
	<u>子を寝かす子守唄かも蚯蚓鳴く</u>	2019. 7.25		日本に神や佛や柿の秋	2019. 8.22
	聞き給ふ弥勒菩薩や蚯蚓鳴く	2019. 7.24		日本の神よ佛よ柿の秋	
	<u>蚯蚓鳴く弥勒菩薩の世は遠く</u>	2019. 7.25		日本の神に佛に柿の秋	
	大仏の中の闇夜に蚯蚓鳴く	2019. 7.24		<u>日本の神に佛に柿たわわ</u>	2019. 8.25
	大仏の闇に染み入る蚯蚓鳴く			<u>日は空を焼いて真つ赤や柿の秋</u>	2019. 8.22
	<u>大仏の中の静寂蚯蚓鳴く</u>	2019. 7.25		日は雲を焼いて真つ赤や柿の秋	
	<u>音もなく地球は廻る蚯蚓鳴く</u>	2019. 7.24		柿食うて奈良に縁なき大事件	2019. 8.22
	澄む水に土を捏ねたる蚯蚓鳴く	2019. 7.24		柿食へば奈良に乏しき大事件	2019. 8.25
澄む水に土の旨さよ蚯蚓鳴く	2019. 7.25	柿照るや奈良に乏しき大事件			
澄む水に泥の旨さよ蚯蚓鳴く		柿剥いて奈良に乏しき大事件			
<u>澄む水の染み入る土や蚯蚓鳴く</u>		<u>柿剥くや奈良に乏しき大事件</u>			
坂道の夜を下れば蚯蚓鳴く	2019. 7.24	<u>柿の蒂なんの役にも立たざれど</u>	2019. 8.24		
<u>坂道を果なく下る蚯蚓鳴く</u>		柿の蒂なんの役にも立たざりき			
<u>引つ張つて蚯蚓を鳴かす童かな</u>	2019. 7.24	紅葉	ゆるゆると湯のあふれをる紅葉かな	2019. 9. 7	
<u>蚯蚓鳴くことなく厄日過ぎにけり</u>	2019. 7.24		ゆるゆるとあふるる湯あり初紅葉	2019. 9.10	
トランプの束積み上げて蚯蚓鳴く	2019. 7.24		ゆるゆると湯舟あふるる紅葉かな		
			ゆるゆるとぬる湯に浸かる紅葉かな		
			<u>ゆるゆるとぬる湯あふるる紅葉かな</u>		
			八ーモニカ紅葉の寺の子が吹けり	2019. 9. 7	
			<u>寺の子が八モニカを吹く紅葉かな</u>		
			<u>湯の町は湯煙の町紅葉濃し</u>	2019. 9. 7	
			<u>着いてまづ大浴場に紅葉かな</u>		
			湯の町は湯煙の町初紅葉		
			<u>山の湯に一糸まとはぬ紅葉かな</u>		

大寒	大寒や掃かれて白き石畳	2019. 2. 12	神の旅	耳搔の絮毛眩しき神の旅	2019. 9. 22
	大寒や掃かれて硬き石畳			行き帰り神にもありて神の旅	2019. 9. 22
	大寒の掃かれて硬き石畳	2019.12. 6		耳搔を忘れて行きし神の旅	2019. 9. 22
寒風	寒風にぱりぱり乾く水たまり	2019.12. 6		日本に温泉多し神の旅	2019. 9. 22
時雨	時雨るるやまだ一寸の葱畑	2019.10.10		日本に数多の出湯神の旅	2019.12. 5
	時雨橋横断歩道ありにけり	2019.10.10		日本に湯の宿多し神の旅	
	せかせかと葱大根や時雨橋			日本は湯けむりの国神の旅	2019.12. 6
	葱が行き大根が行き時雨橋			街道に湯の宿多し神の旅	
	葱が行き大根が行く時雨橋			街道に湯けむりの宿神の旅	
	葱が行き大根通る時雨橋	2019.10.23		街道の宿の湯けむり神の旅	
	葱が行き大根通る時雨かな			神の旅一番乗りを目指しけり	2019. 9. 23
	時雨るるや奈良に二つの始発駅	2019.10.10		気に入りの電波と共に神の旅	2019. 9. 23
	時雨るるや灯りし船の近づき来	2019.10.10		気に入りの電波を伴に神の旅	
時雨るるや主婦買出しの人通り	2019.10.10		気に入りの電波に乗って神の旅		
初時雨	初時雨なりやと耳を澄ましけり	2019.10.10		気に入りの電波を召して神の旅	
懐炉	懐炉を外しマスクを捨てて湯に入る	2019.10.23		一年の早きを嘆く神の旅	2019. 9. 25
	硬直の紙の懐炉を捨てにけり	2019.10.22	大根	大根の末はおろしか風呂吹きか	2019. 9. 25
	硬直の紙懐炉なり捨てにけり	2019.10.23		大根の末はおろしか風呂吹か	
	鉄粉を紙で包んで懐炉かな	2019.10.23		大根を抜いて鍛へし腕とも	2019. 9. 25
	鉄粉の錆びて悲しき紙懐炉	2019.10.24		肩出して畑の大根の寒さうな	2019. 9. 25
	紙懐炉錆びて悲しく発熱す			俎と大根のやうな間柄	2019. 9. 25
	紙懐炉錆の発熱悲しけれ			大根に肩の力のある如し	2019. 9. 25
	紙懐炉悲しく錆びて発熱す			海を来て鱈大根となる夜かな	2019. 9. 25
	ポケットの懐炉で温き小銭出す	2019.10.23		蓮よりも白き大根が土の中	2019. 9. 25
ポケットの懐炉で温き小銭かな		根つからの大根畑でありにけり		2019. 9. 25	

ポイン	卵焼ポインセチアの居間が見ゆ	2019.10.22
セチア	おでん屋にポインセチアは置かぬもの おでん屋にポインセチアの置かれある おでん屋のポインセチアを時に見る おでん屋のポインセチアを誰も見ず おでん屋のポインセチアを時々見る おでん屋のポインセチアを時々見 卵焼ポインセチアの花期長し	2019.10.23
	明るくてポインセチアにはなれぬ 易々とポインセチアにはなれぬ 身代りのポインセチアにはなれぬ 身代りのポインセチアに騙さるる それならばポインセチアの身代りに 昼化してポインセチアの夜となる ひと晩でポインセチアにはなれぬ 嘘化してポインセチアの真つ赤なり 影化してポインセチアの真つ赤なり	2019.10.23
	歳時記にポインセチアの肩身かな 歳時記のポインセチアの肩身かな 歳時記のポインセチアの例句かな 歳時記のポインセチアの例句見る 歳時記のポインセチアの在処	2019.10.23
	ポインセチアの隣の季語の冬至梅 ポインセチアと同じページの冬至梅	2019.10.23
	ポイントはポインセチアの長さなり	2019.10.23
	冬に咲くポインセチアのみことかな あかあかとポインセチアのみことかな	2019.10.23
	鷹化してポインセチアとなることも	2019.10.23